

第3章 3. そのとき、どうする? 一大雨編

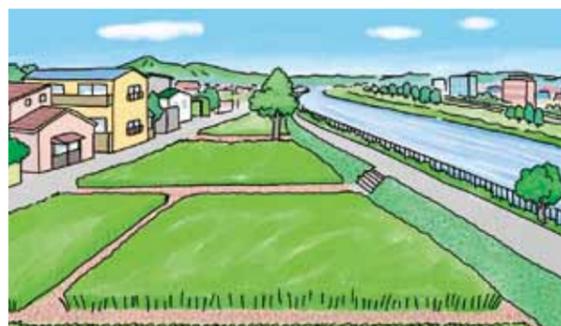
大雨や台風の影響により、^{みやぎ}宮城県でもたびたび被害を受けてきたことは、第2章の「今後予想される地震・災害」で学習しました。大雨や台風は事前にその情報がわかるため、事前の情報収集と早めの対応が自分の命を守ることに繋がります。

しかし、急激に雨の勢いが強まったり、予想以上の雨量や強い風となる場合があるため、事態が深刻化する前に「最悪のシナリオ」を想定した行動をとらなければなりません。

以下の想定場面で、自分の周りに起こるであろう危険を予測するとともに、状況に応じた適切な判断や行動ができるように考えてみましょう。

▶ ケース4

想定場面
 日時 20XX年9月XX日(X) 午後6時00分
 場所 自宅
 人数 家族3人 祖父、あなた、妹(父、母は職場)



あなたの家は、二級河川から直線距離で300mほどの住宅街にあります。街のハザードマップでは、この二級河川の堤防が決壊した場合には、あなたの家の周辺は50cmの浸水が予想されています。

この日は、強い勢力をもった台風が北上しており、西日本では、すでに大雨と強風で被害を受けている地域が多数出しています。あなたの住む地域も昨夜から雨がずっと降り続いていました。この台風は、予報によると宮城県を直撃する恐れがあり、宮城県全域に大雨と暴風の警報が発表されました。そのため、あなたの通っている学校では、午後の授業を打ち切り、生徒全員が帰宅することになりました。午後1時頃に家に着くと、祖父と妹だけでした。両親は仕事で帰りが午後8時頃になり、家にある車2台は両親2人が通勤に使っています。



- ① 雨がかなり強くなって、テレビの音もかき消されるほどです。
- ② 風もかなり強くなってきました。窓に何か風が飛ばされて当たっています。
- ③ 午後6時頃、あなたの住む地域に洪水の恐れがあるため、避難勧告が出されました。

考えてみよう

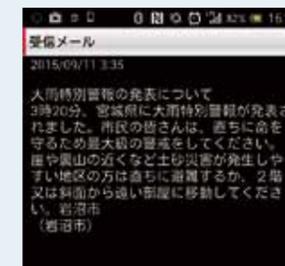


- (1) 想定場面の①～②では、あなたは命を守るためにどのような行動をとりますか。また、そうするのはどうしてですか。
- (2) 想定場面の③では、あなたはその後の危険を回避するために、どのような行動をとりますか。また、そうするのはどうしてですか。
- (3) さらに、以下のような状況について考えてみましょう。
 - 外の様子はどのようになっていると考えられますか。
 - もしも、避難場所に避難できない状況のときはどうしますか。
 - 30分後、あなたは何をしていますか。



真夜中に大雨特別警報が発表されたら・・・

2015(平成27)年9月11日午前3時20分、宮城県に大雨特別警報が発表されました。このとき、すでに宮城県の各地域で記録的な大雨となっており、この大雨特別警報を受け、避難指示を発令した自治体もあります。



- ・このような大雨により、自分の住む地域で予想される災害にはどのようなものがあるか考えてみましょう。
- ・このような大雨特別警報が真夜中に発表されたときには、どのように行動したら自分の命を守ることができるか話し合ってみましょう。

こんな雨にも注意が必要!!

集中豪雨により、短時間で多量の雨が降ることがあります。低い土地での浸水や川の増水などが発生する恐れがあるから、注意が必要だね。気象庁が発表する警報や注意報などの防災気象情報をしっかりと収集し、命を守る行動がとれるようにしておこう。



防災知識



自治体が発令する避難情報

自治体が発令する避難情報の意味を理解し、早めの避難に生かしましょう。



緊急性：小

避難準備情報・・・●警報や注意報などの防災気象情報が出て、事前に避難準備をする。

災害の発生を覚知し、状況から災害の拡大が予想され、事前に避難準備することが適当と判断される場合に、避難行動に時間がかかる体に障害のある人や高齢者などを早めに避難させるため、市町村長が発令します。

避難勧告・・・●避難準備より状況が悪化し、事前に避難が必要。

災害を覚知し、災害の拡大が予想され、事前に避難が必要と判断される場合に、災害対策基本法第60条に基づき市町村長が発令します。

避難指示・・・●避難勧告より状況が悪化し、緊急に避難が必要。

緊急性：大

災害を覚知し、著しく危険が切迫し、緊急に避難が必要と判断される場合に、災害対策基本法第60条に基づき市町村長が発令します。

深めよう



地域の災害特性に応じた対応をシミュレーション

私たちの住んでいる地域によっては、地震や大雨のほかにも高潮、火山の噴火、大雪などによる災害が及ぶことが考えられます。いつ、どのようなときに災害が起こったとしても、自分の命を守る行動がとれるようしておくことが大切です。

特に災害は、想定をはるかに超えることがあるという考えのもと、災害が発生する時間や自分のいる状況を数パターン設定するなど、そうなった場合にはどうするかを考え、事前の対策をとっておきましょう。